



仙台市では、戸別訪問等により仮設住宅に入居されている方々の生活状況や課題を把握し、平成26年3月に策定した生活再建推進プログラム（平成27年3月～生活再建加速プログラム）に沿って支援してまいりました。

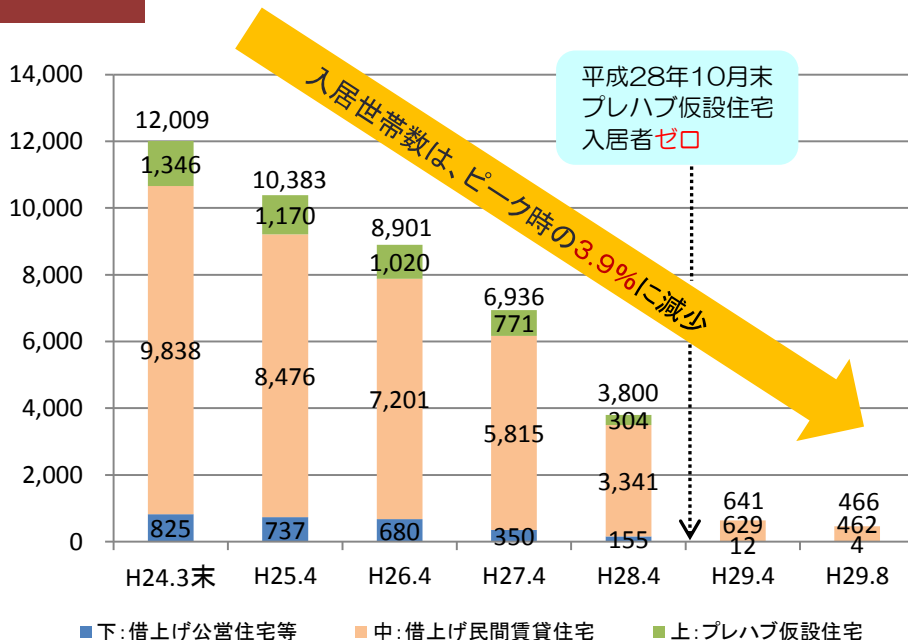
平成29年3月末には、本市で被災された方への仮設住宅の供与は全て終了しましたが、今後も仮設住宅の供与が続く市外で被災された方が、確実に再建を果たしていただけるよう、引き続き支援を行ってまいります。

入居世帯の推移

仙台市内の応急仮設住宅には、平成24年3月末のピーク時において約1万2千世帯が入居していましたが、現在はピーク時の3.9%にまで減少しています。

また、プレハブ仮設住宅が平成28年10月末に解消され、市内の仮設住宅は全て借上げ民間賃貸住宅（※）等の「みなし仮設住宅」となっています。

※ 仙台市は当初より借上げ民間賃貸住宅の割合が仮設住宅全体の8割以上を占めており、既存の住宅ストックを大量活用した初めての事例となります。

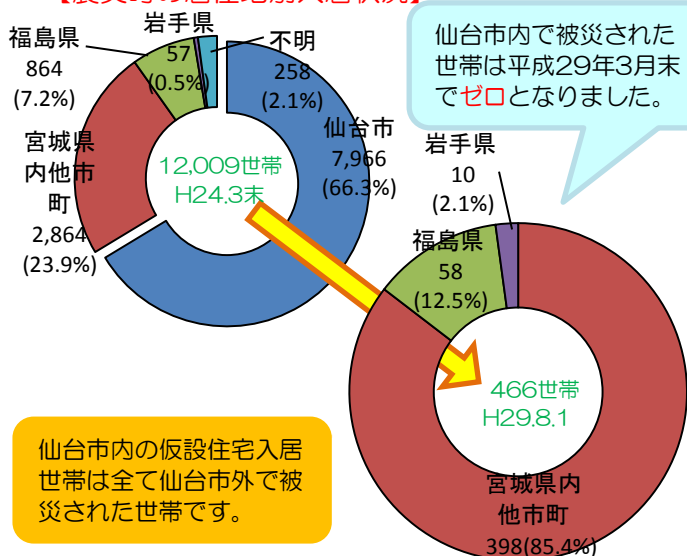


震災時の居住地と住まいの再建

東日本大震災では避難が広域的に行われ、平成24年3月末のピーク時には、仙台市内の仮設住宅入居世帯の約32%は市外で被災された世帯でしたが、平成29年3月末までに市内で被災された世帯が全て再建されたため、現在は市外で被災された世帯のみが入居されています。

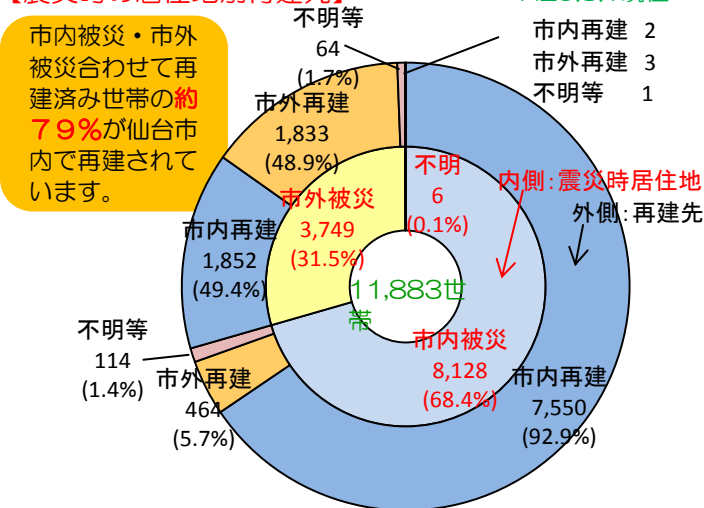
また、これまで再建された世帯のうち、約79%の世帯が仙台市内で再建されています（市内被災世帯の約93%、市外被災世帯の約49%が仙台市内で再建）。

【震災時の居住地別入居状況】



仙台市内の仮設住宅入居世帯は全て仙台市外で被災された世帯です。

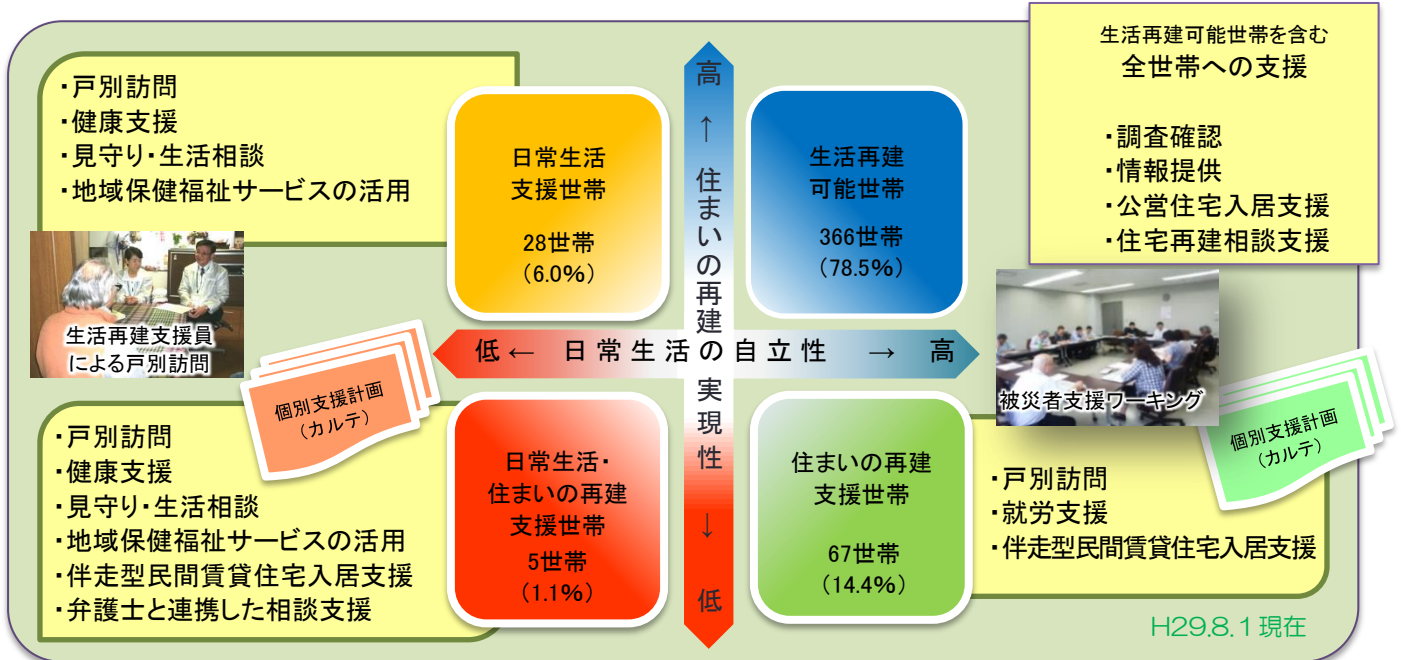
【震災時の居住地別再建先】



※H24.3末（ピーク時）以前に再建した世帯を含む。

入居世帯への支援

新たな生活の場へ供与期間内に確実に移行できるよう、課題を抱える世帯に対する移行支援策の充実・強化に加え、未だ接触できない世帯への対応にも取り組んでいます。



● 深沼海水浴場で「あらはまワイワイキャンパス」を開催しました ●

震災前、毎年夏に多くの海水浴客で賑わっていた「深沼海水浴場」において、7月30日（日）に海に親しむイベント「あらはまワイワイキャンパス」を開催しました。深沼海水浴場では、6年ぶりに子どもたちの笑顔があふれる1日となりました。



～海辺で様々な体験講座を開催～

海辺で遊ぶ楽しさとともに、海辺の持つ多様性に触れ、学んでもらうことができるプログラムとして、地域の小学生を対象に、ライフセービング、ビーチバレー、サンドアート体験講座などを実施。各プログラムとも大変好評でした。また、イベントの最後には、1日楽しんだ海に感謝してビーチクリーンを行いました。



完成したサンドアート「げんき!あらはま」の前で記念撮影

当日は波が高く、海での遊泳はできませんでしたが、会場に訪れた小学生や保護者の皆様の賑やかな声が響きわたりました。今回のイベントの結果も踏まえ、将来的な海水浴場の再開について引き続き検討していきます。